文部科学省認可通信教育

ON AIR

NO. 109

放送大学通信 オン・エア
発行月 2013年3月
発　行 放送大学
〒261-8586　千葉市美浜区若葉2-11
043-276-5111（総合受付）

CONTENTS

特集:大学院 …… 1
ソーシャルキャピタルとは何か …… 8
被災地リポート …… 10
研究室だより …… 11
2013年度学部・大学院開設改訂科目 …… 12
サテライトスペースだより …… 16
エキスパートをご存知ですか? …… 18
退任のごあいさつ・学園ニュース …… 19
インフォメーション …… 20

特集　大学院

放送大学大学院で学ぶことの魅力

放送大学大学院は、学生受け入れを2002年4月から開始し、今年で12年目を迎え、修了生の累計は2012年3月末時点で3,544名となりました。また来年度から「情報学プログラム」を新設し合計7プログラムとなり、ますます充実していく放送大学大学院。今回は大学院の教育担当である來生副学長に、放送大学大学院の魅力についてお話をうかがいました。

來生副学長　私は、現在大学院の教育も担当する副学長ではありますが、放送大学に着任して3年強にすぎず、自分の大学院生への教育は去年と今年の学生だけという限られた中で、放送大学大学院の魅力を存分に語ることができるか、心もとないのですが、放送大学大学院の魅力についてお話をしたいと思います。

──通学制の大学院との違いは何でしょうか？

來生副学長　通学制の大学院では最低週に何回か、授業を受けに大学に行かざるをえません。前任校でも企業や地方・中央の官庁に働きながら、学位を取りに大学院に来た学生がいました。派遣で2年間労働を免除された人もいましたが、自分で休暇をとりながら通学した人もいました。年々、派遣で来ることは難しくなり、様々なコストも決して小さくない。放送大学の大学院は、この点においては、他を圧する魅力があります。授業を自分の都合に合わせて、放送で単位を取得できるというのは、働きながら

学位を取ろうという意欲のある人にとっては他を圧する大きな利点で、学位取得の経済的負担も少なくて済む。

しかし、何かを犠牲にせずに何かを実現することはできません。その分、放送大学のシステムでは、教員との直接の接触の機会が減ずることは事実です。これに対しては各教員が工夫をして、指導を受ける学生を集めた定例的なゼミナールの実施、遠方の学生に対するメール等を利用した個別指導、状況を見ての教員による地方出張での直接指導などを組み合わせて、できるだけ論文指導にマイナスが生じないように努力をしています。

学部、修士、博士と、より高度な教育を受けるにつれて、どのような領域の学問も受け身で「教わる要素」が少なくなり、自分で調べ考え、オリジナルな説得力のある見解を取りまとめ、それを他人に示し、他からの批判を受けて他人を説得し、あるいは自らの考えを修正する「能動的」要素が多くなります。その意味で、放送大学のこのようなシステムは、学生諸君が自立してものを考え、その成果を指導教員と議論して、自己改善をはかるシステムとして優れているといえます。

──放送大学大学院に向いている学生像とは？

來生副学長　そんなわけですから、神とも崇める大先生に、手とり足とり導いてもらうことに最大の喜びを感ずるマゾヒスティックなタイプの人は、放送大学の大学院には向きません。どこにも向かない。キョウビそんなタイプはいないかもしれないので、これは杞憂。

そうではなく、これまでの人生の経験を基礎に、アカデミックな研究の体系では見過ごされがちな、実際的でしかも社会的には大きな価値のある問題を自分の目で発見し、それをアカデミックな世界でも評価されるように、磨きぬいて発信をしたいという意欲のある、自立した精神を持つ人々にとっては、放送大学の大学院は大いに魅力的な大学院であるはずです。

──最後に、大学院へ進学を検討されている方に一言お願いします。

來生副学長　学ぶための素直さ、すなわち自らの誤りを改めるに憚ることのない自己の客観化能力と精神の柔軟性を持ち、教員との議論を通じて、相互に新たな認識の世界に到達し、それを広めることに喜びを求めようとする方は、ぜひぜひ、放送大学大学院に入学を。

──來生副学長ありがとうございました。

平成25年度(2013)第1学期大学院案内
放送大学ホームページでデジタルブックを掲載しています。

くわしくは 放送大学 検索

生活健康科学プログラム

人間活動の根本である“生活”の課題に取り組む指導的人材を育成

生活健康科学プログラムは、生活科学、健康科学、社会福祉学の領域における専門的かつ総合的な知識を持ち、生活環境をよりよい方向に導くための方法を習得し、人々の生活の質の向上に資するための施策に積極的にかかわる能力を有する指導的人材の養成を目的とします。

学生メッセージ

生活健康科学プログラム 修士全科生
小林 富貴子

歯科医として地域医療に関わりながら子育て終了。纏まった自分の時間ができる! ワクワクしながら〈やりたいことリスト〉を書き連ね、選択したのは、もう一度学生になることでした。修士科目生として一年間を過ごし、久しぶりの学びは決して楽ではないけれど、毎日の生活に新しい彩りが加わり、その厚みが増すことを実感しました。

昨春から修士全科生として在籍しています。放送大学大学院は、内容の豊富な放送授業、受講時間や媒体の選択肢の多さなど、いくつものメリットがありますが、修士全科生の一番の醍醐味はゼミです。夏休み冬休みを除く月一回のゼミでは、研究指導の奈良由美子教授とティーチングアシスタントさんを中心に、各地の様々な分野で活躍するゼミ生やゲストが意見交換をし、各々の研究テーマを練り上げてゆきます。難しい話ばかりとは限らず、「この言葉、初めて見るけど何と読むの?専門用語?」「この表現は関係者以外には解りにくいかも。」等の執筆者では気が付かない指摘や、エクセルやパワーポイントの裏技、文献や便利なフリーソフトの紹介など、楽しい時間です。どんな時もどんなことにも丁寧に答え、一緒に考えてくださる先生方にはいつも敬服しています。レジュメやレポートの作成、度々のメールのやり取りで、苦手だったタイピングが少しずつ上達しているのは予想外の収穫でした。

教育を受けることは、守られ、導かれているということ。安心感に包まれて、「学生であるという贅沢」を許されていることに感謝する毎日です。

人間発達科学プログラム

現代の家庭、学校、地域社会が抱える教育課題を科学的に解明し、実践的な解決策を探る

現代社会は人間の発達に様々な課題を要請しているとともに発達上の困難や問題も生起させています。人間発達科学プログラムは、心理と教育に関する科学的・実証的な調査研究の方法と専門的知見を有し、家庭、教育機関、地域社会等の諸分野で実践的に活動できる指導的人材の養成を目的とします。

学生メッセージ

教育開発プログラム 修了生(現修士選科生)
清水 浩光

平成13年3月、北海道東端の港町、根室市の小学校長で定年を迎え、翌月、教養学部科目履修生になりました。科目履修生や選科履修生を続けること4年、修得単位が39単位になった時点で、教職時代の実践を卒業研究の形でまとめようと思うようになりました。若い頃学んだ大学の単位から62単位が既修得単位として認定され、合計101単位で全科履修生(3年次編入)となりました。卒業までの不足単位は23単位です。

卒業研究の過程で、新たな研究課題が浮かびあがってきました。そこで、大学院修士課程に挑戦してみることにし、当時の教育開発プログラムでご指導いただけることになりました。研究指導での先生方の指導は、研究の方向を確かなものにする羅針盤でした。また、全国各地から集まった、ゼミの学生の皆さんの研究のひたむきな姿勢にも励まされました。

修士論文ができあがりました。放送大学で学び始めてから10年が経過していました。研究テーマは『開拓の歩みと酪農文化の継承』です。かつて不毛の地とまで言われた根釧原野は、今では日本有数の酪農地帯に変貌しており、開拓の先導的役割を果たした根釧パイロットファーム地区を研究のフィールドにしました。指導教員の岡崎友典先生には、この地域を訪れてくださり、地域に即して考えることの大切さをフィールドワークを通してご指導いただきました。

定年後、町の文化連盟事務局長として地域文化活動の世話役をやってきました。放送大学の学びを生かし、地域文化である酪農文化について考え、文化活動にかかわっていきたいと考えています。

臨床心理学プログラム

心の問題が深刻さを増す現代、密度の濃い演習・実習を通して臨床心理士の育成と再研修を行う

不登校や引きこもり、いじめ問題、子育て不安、虐待やDV、中高年の職場環境の問題、喪失や死との出会い、そもそも生きてゆくことにまつわる不安など、現代においては、こころの問題は深刻さを増し、専門的・実践的な取り組みが求められています。臨床心理学プログラムでは、教育・医療、保健、福祉、司法、労働・産業等さまざまの分野で、広い視野を持ちながら、実践的に活動できる高度専門職業人（臨床心理士）の育成及び再研修を目的とします。

学生メッセージ

臨床心理学プログラム 修士全科生
石川 裕子

私は現在、公立教育センターで非常勤の相談員として勤務しています。でも、もとは心理ではなく美術畑出身です。子育てで社会からリタイアし迷った末、放送大学で心理学を学びました。卒業論文は憧れの小野けい子先生のゼミで、エドヴァルド・ムンクの描いた樹をバウムテストの知見から研究し、ご指導から多くを学ばせていただき、もっと表現療法を学び研究したいと思いました。大学院進学に向けて院試のために猛勉強し、院に入学でき現職に就きましたが、仕事・研究・研修・単位取得と家庭生活の並行は思った以上にハードでした。そして、大学院面接授業での先生の事例のお話は非常に深く、自分は心理臨床を続けていけるのかとの不安が押し寄せ、また、当初の研究計画が迷走し、同期生の着実な研究の進捗状況を聞いては劣等感に陥りました。しかし、発達障害の子どもへの心理療法をテーマとした修士論文を、先生のご指導の賜物でなんとか書き上げることが出来た今、さらに研究を深めたい、仕事のできる臨床家となるためにもっと研修を受けたいと思っている自分がいます。修了は出口ではなく心理臨床の入口でした。先は長く道半ばで客死しそうですが、ゴールではなく過程が大事なのかなと、院で学んで思います。思い返せば、院試のための勉強も糧となりました。院を目指す皆様、どうぞがんばられてください。臨床心理プログラムは、先生方の守りの中で安心して仲間と共に成長できる希有な場所です。

社会経営科学プログラム

激変する現代に求められる持続可能な社会経営。政治や経済など、あらゆる社会領域での提言能力を養成

今日の社会（国際、企業、組織や地域社会）は、政治的経済的構造変容のもとで、従来からの諸問題に加え、多様で複雑な新たな諸課題が生起し展開しています。これらの社会的諸課題を発見し分析し、解決するための方法論を身につけ、そうした諸課題に多面的に追求し関われる高度な能力の養成を目的とします。

学生メッセージ

社会経営科学プログラム 修士全科生
下石川 哲

私の研究テーマは「食糧と貧困問題」である。私は大学卒業後商社に入社し、その後海外駐在期間も含めて穀物貿易に従事して来ている。この間食糧を取り巻く環境は大きく様変わりし、主要食糧である穀物の需給は逼迫化し、且つ国・地域間格差が広がりつつある。このような現状に対して、私は穀物貿易の現場で培った知見や視点を生かして、問題の本質を探り当てて処方箋を見出し度いと考え、大学院への進学を決意した。さて、数ある大学院の中で私が放送大学大学院を選んだ理由は主に3点ある。先ず、本学は多忙な社会人でも研究時間が捻出出来るよう十分配慮されている。私の場合平日は終業時刻が予想出来ず、週末も海外出張が多い。然し乍、本学では修了に必要な単位は週末にWEBか学習センターで集中学習すれば取得可能であり、又修士論文に必要な研究指導について私の所属するゼミは毎月第2日曜日に開催される為出席への障害はない。次に本学の研究が学際的且つ実践的である点も魅力である。指導教官からは、修士論文では経済・政治・社会・環境等多岐に亘る観点を意識し、且つ理論に終始せず現実的な提言に繋げられるよう御指導戴いている。最後に本学では日常の会社生活では得られない人々との交流の場が得られる点も指摘したい。私の所属ゼミには国家公務員・大学教員・メーカー勤務等多彩な経歴の方々がおられ、ゼミの後の懇親会も含め貴重な情報交換の機会が得られている。本学の院生生活を満喫しながら修士論文を完成させて、その後の知的生活にも大いに役立てて行き度い。

人文学プログラム
（文化情報学プログラム）

※平成25年度（2013）に文化情報学プログラムは人文学プログラムに名称を改めます。

人文学の基礎的素養をもとに、総合的な知見と判断力を生かした実践的活動のできる人材の養成を目指す

人文学プログラムは、人間が長い知的営為の積み重ねによって築き上げてきた人文学の基礎的素養をもとに、総合的な知見と判断力を生かした実践的活動のできる人材の養成を目的とします。

学生メッセージ

文化情報学プログラム 修士全科生
徳永 一夫

文化情報学プログラムの修士全科生として、島内裕子教授のご指導の下で、日本の中世女流日記文学『とはずがたり』を研究しています。『とはずがたり』は鎌倉時代後半に、後深草上皇の宮廷に出仕した後深草院二条という女性によって書かれた日記文学です。前半は宮廷生活の赤裸々な告白、後半は出家して尼となってからの旅行記で、その行動範囲は、東は鎌倉から長野の善光寺まで、西は中国地方から四国にまで及んでいます。

『とはずがたり』との付き合いは、放送大学の「人間と文化コース」で卒業研究のテーマにしたときから本格的に始まりました。放送大学に入学したのは、定年後に日本各地を旅行したときに、歴史や文学を知っていたらより楽しいだろうという動機でした。学部在学中に、たまたま出会った『とはずがたり』をより深く理解したくなり、前半の宮廷編を研究するために卒業研究を履修することを選択し、島内裕子先生の卒論ゼミでご指導を受けました。

当時の文化的な背景を考えながら『とはずがたり』を読み込んでいるうちに、卒業研究を土台に後半部分の紀行編を考察したら、また新しいものが見えてくるのではないかと思いたち、大学院への進学を決意しました。

楽しいから勉強を続けているだけなので、修士号を取得したらどうこうしたいという具体的な計画はないのですが、将来どこかの大学の博士課程で長期履修学生として研究を続けたいなという夢を持っています。

自然環境科学プログラム

自然の探求を多面的・統合的に深め、人類の英知の蓄積と普及に貢献する。自然科学を基盤に人類の未来を考え、環境問題をはじめ科学が関わる現代社会の諸課題にも取り組む

科学・技術が自然環境や人間社会に大きな影響を与える現代にあって、科学的認識に基づいて問題を把握・理解し、その解決を指向する科学的実践と客観的評価の能力を身につけた人材の養成を目的とします。

学生メッセージ

自然環境科学プログラム 修士全科生
谷脇 すずみ

子どもの頃から科学が大好きでした。空を見上げては宇宙の果てや宇宙の起源に思いを馳せ、蜘蛛が巣を張っているところや大きな百足を運ぶ蟻の行列を眺め、科学雑誌の付録の試験管や試薬が宝物でした。しかし、地方在住のせいか、女の子は理科が苦手との風潮が当時はあり、中学生の時には、「おまえは女だから」と理科部への入部を断られ悔しい思いをしました。

それから時を経て現在、理系研究職・技術職の女性も増え、「女性は理系が苦手」とのイメージは薄らいたと思います。しかし、中年の女性が「科学が好き、興味がある」ということを認められない男性がまだ少なからずいます。その様な人達に、知的好奇心をモチベーションに学び続ける姿を見せることによって、認めさせることができるのではないかと思うとともに、他人に否定され、ゆらいでしまいそうな「科学が好き、興味がある」の思いに自信が持てるようになりました。

放送大学大学院の受験にあたって、悩んだ末、一番興味を持っている物理を選択しました。研究テーマは、「様々な物理現象を視覚化し、わかりやすく伝える」です。修了後には、科学教室等に参加し、科学の楽しさ、物理の面白さを子ども達や一般の方々に伝えたいと思っております。また、科学史を学ぶことによって、科学に興味を持った市井の女性がどのような思いを抱いていたかを明らかにしていきたいと考えています。

情　報　学
プログラム

平成25年度（2013）設置

情報社会に対応し、実践的活動ができる人材を養成。社会にどう貢献できるのか、新たな自分を発見する

情報通信技術を基盤とする情報の表現と処理が社会現象や個人の思考傾向に大きな影響を与えている現代にあって、社会における諸問題を情報に関する基礎的認識に基づいて理解し解決する実践的活動ができる人材の養成を目的とします。

教授メッセージ

ICT活用・遠隔教育センター長／教授
川合 慧

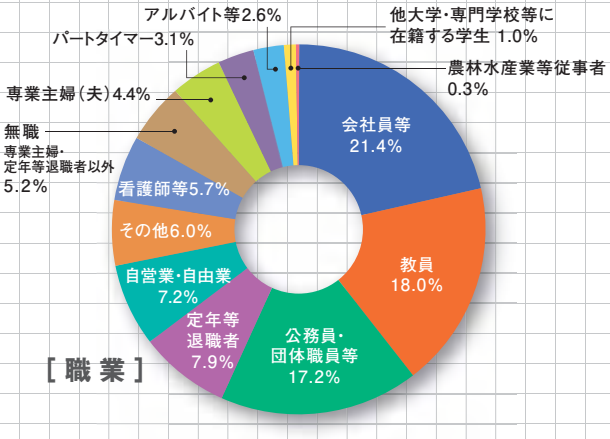
人間は生涯にわたって、多様な情報に取り囲まれ、晒されて成長してゆきます。人間の集まりである社会自体も、その時々の情報環境の変化・進展によって、ダイナミックに変化していきます。このような状況にあっては、人間は個人としても、社会の構成員としても、情報にまつわる事柄に無知・無関心でいることはできません。

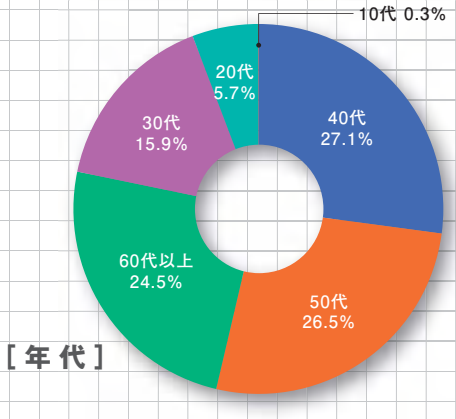
本プログラムでは以上のような認識のもとに、情報に関わる様々な研究対象を扱います。個別の分野としては、情報科学、情報工学といった情報の基礎理論や問題解決及び情報処理システム、人間の思考や認知の探究とその情報系との関わり、人間とシステムとの間の情報のやりとりを司る様々なメディア、社会と情報との接点に生ずる様々な問題、及び情報システム自体の枠組みや技術とその応用、などがあります。

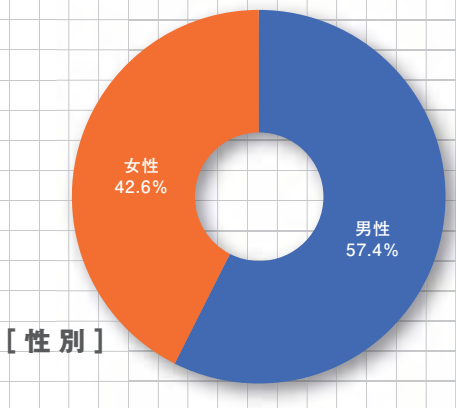
本プログラムでの研究では、概観的な評論や実験・事実に基づかない議論ではなく、具体的な事実や観測・観察の結果を根拠とした理論的枠組みの展開と、それを土台とした実際的な議論と論理的な考察とが求められます。こうした一つ一つの積み重ねこそが、新しいシステムの構築や諸現象の理論的解明につながり、真の学問的喜びを得ることになります。

放送大学大学院の在学生5,707名の概要

修士全科生/1,096名 修士選科生/3,721名 修士科目生/890名
（2012年度2学期現在）

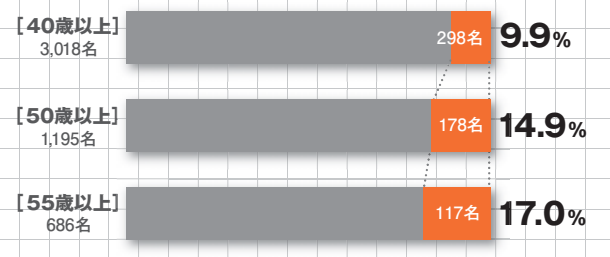






全国の大学院修士課程入学者に占める放送大学修士全科生の割合

（文部科学省平成24年度学校基本調査）
（放送大学調べ）



放送大学大学院修士全科生 入学者選考について

大学院修士全科生の入学の時期は毎年1回、4月1日です。前年度に入学者選考を実施します。各プログラムの募集人員は、生活健康科学：90名程度、人間発達科学：60名程度、臨床心理学：30名程度、社会経営科学：100名程度、人文学：90名程度、情報学：70名程度及び自然環境科学：60名程度です。出願期間は8月中旬から下旬となっています。

入学者選考は、提出書類、筆記試験及び面接試問により行い、第1次選考の合格者に対して、第2次選考を実施します。第1次選考は、10月初旬にプログラム毎に筆記試験を行い、「与えられた課題に対する理解力及び論述能力」を判定し、第1次選考の合格者を決定します。第2次選考は、11月下旬にプログラム毎に提出書類をもとに面接試問を行い、「研究遂行能力、意欲など」を判定します。最終合格者は、プログラム毎に、筆記試験及び面接試問の実施結果を総合的に判定し決定します。

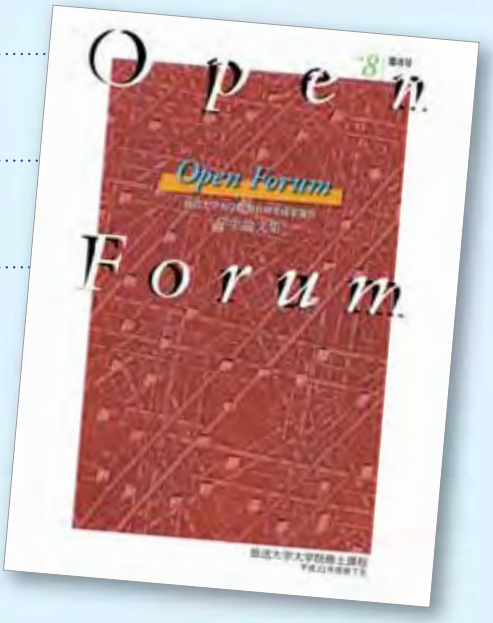
なお、入学者受入方針についてはホームページを、また、出願資格、入試日程や出願書類等の詳細は、6月中旬に公表予定の学生募集要項をご参照ください。

また、本大学院に入学を希望される方や興味・関心がある方を対象に、6月中旬から7月中旬にかけて、入学希望者ガイダンスを開催しています。日程等が決まり次第、ホームページに掲載しますので、ご確認ください。

放送大学大学院教育研究成果報告

Open Forum

第8号のご案内



放送大学大学院の学生たちは、どのような環境で、どのような目標を立てて学んでいるのでしょうか。どのような形で教員の指導が行われているのでしょうか。学生による研究の成果には、どのようなものがあるのでしょうか。
――Open Forumは、そんな疑問に具体的にお答えする媒体です。

第8号の内容もこれまでと同様、平成22年度の修士課程修了生の修士論文を基にした「学生論文集」です。Open Forumは、修士課程だけでなく教養学部に在籍する皆さんにとっても、学習と研究の指針、そして大きな励みとなるにちがいありません。とりわけ修士課程への進学をお考えの方は、願書を出すまえに、この冊子を手に取って、内容を検討していただきたいと思います。どのプログラムで、どのような方法論の、どのような研究テーマが立てられているか、あらかじめ実例にそって確認しておくことが大切です。

オープンフォーラムはどなたでもご購入できます。
価格:800円（消費税込）本学学生の方は、640円（消費税込）
購入方法:各学習センターの窓口にて代金（現金）引き替えでご購入できます。なお、本学学生の方は割引価格で販売しますので学生証の提示をお願いします。配達を希望する場合はホームページをご覧ください。
http://www.ouj.ac.jp/hp/gakuin/gakuin04.html

ソーシャル・キャピタルとは何か

社会と産業コース
教授 坂井 素思

108号までお送りした、各コースの先生方による「コース別座談会」に代わって、110号より新たに「コース横断座談会」が始まります。コース枠を超えて先生方にお集まりいただき、一つのテーマについて議論を深めていただくというもので、最初のテーマは最近何かと目にする機会の多い「ソーシャル・キャピタル」。そこで今号では、予備知識として「ソーシャル・キャピタルとは何か」について坂井素思教授（社会経済学）にお話しいただきました。

ソーシャル・キャピタルとは何か

東日本大震災後の「絆」、ロンドンオリンピックでの「チーム力」…昨今、人と人との結びつきを示す言葉をよく耳にします。そこには、皆がつながればいつも以上の力が出ることへの期待が込められているようです。この、1+1を2以上にするものがソーシャル・キャピタル（Social Capital、以下SC）です。直訳すると「社会資本」ですが、いわゆるハードの社会インフラと混同されるため、「社会関係資本」の訳が一般的です。

その定義は、アメリカの政治学者ロバート・パットナム（Robert Putnam）によるものが、標準的なものとされています。

「（SCとは）個人間のつながり。すなわち社会的ネットワーク、およびそこから生ずる互酬性と信頼性の規範」。

この定義にあるSCの構成要素「社会的ネットワーク」「互酬性」「信頼性」について少し補足します。

まず「社会的ネットワーク」。この言葉には全員がつながるイメージがありますが、全員参加でなくてもよいのです。例えば、献血制度は社会的ネットワーク、つまりSCのわかりやすい一例ですが、ほんの数%の人の献血によって成り立っています。このように一部の人がつながるだけで何かを起こす力を持っているのがSCです。逆に全員参加だとナチズムのように制御不能なものに。これはマイナスのSCと言ってよいでしょう。

次に少し難しい「互酬性（reciprocity）」という言葉について。これは、人と人とがものを与えたり受け取ったりという、一つの社会関係に働く原理のことで、日本では「結（ゆい）」に相当します。例えばAさんがBさんにモノを贈ったときにBさんはAさんにではなくCさんにお返しします。CさんはDさんに、Dさんは…と巡り巡って最後にAさんに返ってくる。全体として「交換」がなされ、そこには普段より力が出てくるというのが互酬性の考え方。これは文化人類学者のマルセル・モース（Marcel Mauss、1872-1950）やクロード・レヴィストロース（Claude Levi-Strauss、1908-2009）らが延々と研究したもので、それを経済学や社会学などが取り入れて来たという経緯があります。

最後に「信頼性」。信頼性には、家族や隣人を信頼してますか、という時の信頼性と、社会全般を信頼してますか、という時の信頼性とがあり、この2つはどうも性質が違うということが分かってきました。前者は、近い人同士が結びつくことで力が出てくるという考え方で「Bonding Type（結束型）のSC」、後者は、やや遠くの人と結びついた方が良いとする「Bridging Type（橋渡し型）のSC」といった言い方でSCは分類されます。

なお、この結びつきは強いほどSCの力が増すと考えがちですが、アメリカの社会学者マーク・グラノヴェッター（Mark Granovetter）は『弱い紐帯の強み（strength of weak ties）』（1973）説を唱えています。282人のホワイトカラーの転職行動を調べたところ、よく知る人より繋がりの弱い人から得た情報を元に転職した人が多かったのです。これは「よく知る」人同士は同一の情報を共有して新たな情報が

得られる可能性は低いが、「あまり知らない」人は自分の知らない新情報をもたらしてくれる可能性が高いからだと考えられました。この「あまり知らない」間柄を「弱い紐帯」と呼び、その重要性を明らかにしたのです。これはSCが特に強い“結びつき”を前提にしていないことを表しています。

SCの存在感の変遷

SCの歴史的な変遷を見てみましょう。実は、家族関係とかコミュニティとかのBonding Typeが強かった中世の頃がSCが強かったのでは、という議論があります。が、皆さんが親子喧嘩するように、強すぎる結びつきはうまい協力関係が築けない、という欠点があります。そこで、近代はbridging Typeの結びつきを用意するようになりました。つまり「市場」や「政府」です。ところが、「市場」はグローバリゼーションで拡散しすぎ、また「政府」は帝国主義を生んでしまった。家族の在り方も変わりました。「市場」と「政府」の前に、大家族やコミュニティといったものは壊滅しました。でもどうやらそれではダメだということがわかってきた。この近代への反省から、現代ではSCのBonding TypeとBridging Typeのバランスをいかにとるかといった観点が重視され、ここに中間的なNPOやNGOの隆盛があります。

つまりSCはそういう大きな時代的背景を背負ってその存在感（存在価値）を変遷しているのです。一方で我々の日々の営みとも連動しながら。

身近な例をあげると…「健康」という問題。近代は感染症や伝染病などに「予防」で打ち勝った。ところが現代は「習慣病」に苛まされています。これに対抗するには社会の力を総動員しないとダメという考え方からSCが注目されています。「教育」の問題。個人の能力重視の「ゆとり教育」への偏りから、社会の中に教育というものはあるべきだ、という揺り戻しを経て教育学でもSCが着目されています。

SCの日米比較

SCと「犯罪率」との相関も指摘されています。アメリカは20世紀に国力が充溢し民主主義が勃興。トイレや交通機関などが区別された黒人差別問題は1960年代のケネディ政権の平等主義によって改善されます。ところがその後の90年代まで急速に犯罪率が高くなりました。なぜか。不況だから、教育力が低下したからといろいろ議論されましたが、どうもそれだけでは説明できない。そこでSCが関係しているのでは、という仮説のもとでいろいろな指標を用いてSCを測ってみると、SCの高い州では犯罪率が低く、SCの低い州では犯罪率が高いということがわかったのです。

同じアメリカで、SCと「健康」の相関について着目した公衆衛生の専門家もいました。所得は高くないが健康であるという地域が確かにある。所得や供給の状況などの要因を差し引いた残差としてSCがあるとしました。先の犯罪率の話と同様に、SCの高い州は健康な人が多いことが分かったのです。このように最初は「仮説」だったSCが徐々に実証研究がされていくうちに、あたかも実在するものとして認められるようになったのです。

日本でも2003年に内閣府がSCを県別に測っています。結果、地域性の高い県はSCが高く、都市性の高い東京や大阪はSCが低いとされました。これには都市部から大きな反論が起きました。SCの定義の仕方とか計測の際の変数の設定によるもので、都市派の人たちは、アメリカの情報産業集積都市シリコンバレーを引き合いに、モノと人が集まり人々の結びつきが強い、それは人脈となって経済成長に寄与するし、生活もよくする、健康にもよい、だから都市部の方がSCが高いとしています。どちらが正しいかは別として、人々の結びつきが強い、つまりBonding Typeの地域に比べて、都市部はBridging Typeなので計測しにくいという面はあると思います。因みにSCの指標の一つにボランティア活動があり、都市部の所得の高い地域はボランティア活動が盛んでSCも高いとする研究もあります。

多領域にまたがるSC

SCは、文化人類学、社会学、政治学、経済学、情報学など、多くの研究領域にまたがるテーマです。生物学でもSCは進化論と密接にからんでいます。歴史学でも、「歴史的資源」はSCの一つと捉えることができます。心理学でも社会心理学は「集団行動」や「信頼性」が大きなテーマです。

「SCとは何か」について駆け足でお話いたしましたが、足らざる部分は、110号から始まる「コース横断座談会」に譲ることとします。さて、どういう話が飛び出すか、皆さん、ご期待ください。（編集部取材による）

Tohoku Report 2013

「被災地の現状と対策を見、聞くショートツアー」に参加して

～東日本大震災の津波防災研修と被災地視察～

心理と教育コース 准教授　岡崎 友典

2012年10月18日の全国所長会議の懇親会の折、岩手学習センターの齋藤徳美所長が、「一度被災の現場を見なければ何が課題か解からない。震災・津波は過去の出来事ではない。一度現地に来てはどうか」と語られた。近くに同席していた8人は、それでは是非ということになり、学内の有志に声かけし1泊2日の「ショートツアー」が実現した。教員11名、院生・学生・職員他総勢22人が、盛岡市の岩手学習センターに向かった。

【津波防災についての講義】（11月28日（水）午後）

齋藤所長の講義は公開の形で行われ、学習センターの中講義室は40名を越える聴衆で満席。

齋藤所長（岩手県東日本大震災津波復興委員会の総合企画専門委員会委員長）は、「住民の自治を国が支えることを基本に、中央集権から地方自治へ。被災地の『生業』（なりわい）を作り出す効果的支援が必要」であり、「“ひと”は…今まで生かされてきた。今も生かされている。そして、これからも生かされていく。畏怖と畏敬、恐れを侮らず、自然観醸成の重要性を再認識」することの大切さを指摘された。

越野修三管理監（岩手県総務部総合防災室）は、岩手県の「災害対策本部」が機能の再編・強化された状況を詳細に解説。各市町村の被害状況、危機に求められるリーダーの資質、初動対応における課題と教訓などについて説明後、効果的な危機対応を行うには、「危機の発生を予想（イメージ）し」、「事前にその対処法を準備して」、「その実践に向けて訓練を行うことである」と強調された。

【被災地の視察】（11月29日（金）10時間の行程）

午前8時、満席のマイクロバスは盛岡駅を出発。道の駅「遠野の丘」で休憩するも「買い物ツアーではない」との所長の一声で、地物の物産品に未練を残しつつ寸時に乗車。遠野市消防署に設置された「後方支援基地」にはヘリポートもあり、隣接する運動公園には震災時には支援者のためのテント村が設営された。

「新仙人トンネル」を抜け、JR釜石線に沿って急勾配の道を釜石市街地へ。瓦礫が山積する市街地、商店街には再開した店舗も見られたが、土台のみの住居跡や躯体の鉄骨だけのビルは、復興が進んでいないこと示していた。釜石湾の堤防に仮設された鉄製の梯子を乗り越え、湾内の被災状況も視察。

宮古市田老町の防潮堤（万里の長城）にて

昼食は釜石市鵜住居（うのすまい）地区の一時避難所になった浜辺の宿「宝来館」で。岩崎昭子女将の被災状況の映像を用いての講義と体験談は強烈だった。敷地内には、女将の母校の家族を亡くした同窓生による「慰霊の鐘」が建立されていた。

鵜住居川に沿った釜石東中学校と鵜住居小学校は指定された避難場所をさらに上り、最終的に1200mの道を中学生たちの先導で小学生たちが高台に逃げ「奇跡（ミラクル）の生還」として全国に報道された学校である。一方、「地区防災センター」の2階の「避難室」では、多くの住民が亡くなる悲劇も起きていた。静まり返った室内で、置かれた線香での犠牲者の慰霊。

釜石市鵜住居の防災センター1階の祭壇

このような悲劇は大槌町でも起きていた。崩壊した町役場では多くの職員が犠牲になっている。止まった時計がある玄関の前の祭壇には、亡くなった消防課長の名前も記されていた。

宮古市田老地区では、「万里の長城」と呼ばれる高さ10m、総延長2350mの「X型防潮堤」が町を二重に囲っていたが、16mを超える津波は「あっさりと乗り越えた」という。齋藤所長の「来てみなければ解らない」ことを実感させられる。

「被災地から遠く離れた地域」の私たちに、「震災・津波は過去の出来事ではない」ことを記憶のなかに「刻印」してくださった齋藤先生に、心よりお礼を申し上げる。

生命誕生の謎にせまる
―原始地球におけるL-アミノ酸の起源

生活と福祉コース・
生活健康科学プログラム 教授 小城 勝相

これまで主に動物実験で酸化ストレスの研究をしてきましたが、本学では18歳から考え続けてきたテーマの化学実験をしています。

アミノ酸はタンパク質の原料ですが、L-アミノ酸とそれを鏡に映した構造のD-アミノ酸の2種類が存在します。ちょうど左手と右手のような関係です。これを不斉現象といい、19世紀半ばにパスツールが発見しました。生物のタンパク質はL-アミノ酸のみで構成されているので、タンパク質は高度な認識能力を持ち、不斉分子の一方のみを選択できます。

しかし生命誕生前の地球にはタンパク質のような不斉分子が存在せず、どのようにL-アミノ酸が選択されたのかは今も化学最大の謎です。これが生命誕生の鍵を握ると考えられるからです。不斉分子を使わず普通に化学合成すると、LとDが必ず1:1で生成し、どちらかがほんの少しでも多くなることは決してありませんでした。

D・Lの比率を決定中

私たちは2004年に実験結果を伴う初めての仮説、「L-アミノ酸セット同時誕生説」を英国王立化学会速報誌に発表しました。DとLを等量含む多種類のアミノ酸が存在すると、結晶化においてはL-アミノ酸かD-アミノ酸、どちらかがセットで多くなります。これは画期的な発見でしたが、DかL、どちらが多くなるかは、最初にどちらの結晶が析出するか、つまり偶然に決まるという結論になりました。Lが選択されたのが偶然だったのか、必然になる条件があるのかを調べています。簡単な実験器具だけで、単純でありながら大きな謎を追求する研究も面白いものです。

広い視野から読み解く歴史

人間と文化コース・
文化情報学プログラム 教授 草光 俊雄

私は放送大学では西洋史の科目担当ですが、専門はイギリス近代史、とくに社会経済史と文化史を研究しています。関心テーマは若い頃からいろいろ変わってきましたが、一貫しているのは近代とは何かを常に考えてきたことでしょうか。昔のように、一次資料を読んで論文を書くことは時間的にも能力の上でも出来なくなってきていて、歴史家失格だなと思うことがよくあります。

イギリスで私が博士論文を書いていたときに、公私にわたりお世話になっていたラファエル・サミュエル先生（1934−96）は図書館や資料館での調査が終わると、家でのりとはさみで資料をファイルに整理していました。ファイルの数は膨大なものでした。また尊敬するキース・トマス先生（1933−）はノートにとった資料や引用、メモなどを使い古しの大きな封筒にテーマごとに整理していたそうです。資料で歴史を語らせるというイギリスの歴史家たちの姿が彷彿としてきます。今

放送大学研究室で

ならさしずめファイル・メーカーといったところでしょうか。ノートをとることが億劫になってきたこの頃ですが、年をとったからこそできる研究もあり、広い視野に立った長期的展望を考えるような研究を書きたいとも考えています。

放送大学の授業ではなるべく最新の研究を紹介したいと思っています。そのために床に積み上げられた本の山は地震が起きたらひとたまりもないでしょう。二重に並べられた本棚の本も危険です。でもまだ売り払う気になれないのは向学心が残っている証拠でしょうか?

運動と健康（'13）

放送大学教授（生活と福祉） 臼井 永男

臼井 永男 教授

近年の機械化の進行による便利な生活は、全身的な作業（労働）の減少と精神的疲労の増大に伴う生活習慣病の発生、さらにその低年齢化をもたらす要因の1つとなった。さらに、少子高齢化社会を迎え、生活習慣病の予防や体力の保持増進を目的とした、スポーツの普及にはめざましいものがある。一方で、生活の質の向上、あるいは心の豊かさを求めてスポーツに携わる例も増えており、身体的、精神的に果たすスポーツの役割はいっそう高まるものと思われる。

本講義では、からだを動かすことの重要性について述べるとともに、スポーツを安全に、楽しく、効果的に実施するために知っておきたい、からだの構造や機能について、運動生理学的ならびに身体運動学的な基礎知識と課題を提示している。

多くの人が日常生活に運動を取り入れ、生活の質のさらなる向上を図るために、また健康寿命の延伸のために努められることを願っている。またこの講義で得られた知識をもとにして、健康科学の領域で開講している科目の学習へと進めていかれれば幸いである。

生活者のための不動産学入門（'13）

明海大学教授（放送大学客員教授） 齊藤 広子　明海大学教授（放送大学客員教授） 中城 康彦

齊藤 広子 教授

中城 康彦 教授

わたしたちの生活は、不動産を基盤に支えられています。しかしながら、そのための学問を一般的には身につけていません。十分な不動産知識をもっていないがゆえに、例えば「住宅売買で失敗する」「賃貸住宅でトラブルになる」ことをはじめとし、「敷地分割して住宅を建てる」など、自分たちが知らないうちに不動産を巡る被害者になるとともに、加害者にもなっています。安心して居住できるすまい・まちの実現には国民一人一人が不動産学を身につけることが必要なのです。生活者の視点から、生活に身近なテーマを、すまいを中心に取り上げて、不動産学の基礎を学んでいきます。授業に登場する太郎さんと花子さんといっしょに、私たちの身近なテーマを取り上げて、具体的にどのようにすればよいのかを学んでいきましょう。

事例から学ぶ日本国憲法（'13）

北海道大学教授（放送大学客員教授） 岡田 信弘

岡田 信弘 教授

日本国憲法は、98条1項で、「憲法の最高法規性」について定めています。この規定を見るだけでも、憲法の重要性が分かると思います。でも、皆さんの中には、憲法は民法などとは違って「身近な存在」ではなく、何かよく分からない「遠い存在」だと感じている人も多いのではないでしょうか。

私が担当する授業は、そのような人たちに、日本国憲法が少しでも「身近な存在」になってもらうことを目的として展開されるものです。そこで、必ずしも法律や憲法に関する知識を十分に持っているとはいえない人たちが、憲法に対する理解を比較的容易に深めることができるようにいくつかの工夫を試みてみました。

授業の構成もそのひとつです。各授業の冒頭で事例的な「設問」を示し、それに即して学説や判例の議論を説明する形を採りました。最初から最後まで抽象的・理論的な説明だけですと、憲法がやはり「遠い存在」のままに終わってしまうように思われたからです。日本国憲法を深く「味わう」きっかけになれば幸いです。

計算事始め（'13）

放送大学教授
（人間と文化）川合 慧

川合 慧 教授

この科目では、私たちが問題を解決してゆく時にいろいろな形で現れる「やり方」を、計算というキーワードで考えてゆきます。計算は、あみだくじやカードを使うマジックといったものから、家計簿での分類と集計、買い物での釣銭の払い方、さらには地震の被害予測や現代社会では必須の暗号の利用まで、幅広い局面で登場します。"計算"というと"式"をイメージされがちですが、ここでは身近な例から始めて、計算の面白さをお伝えします。

数や古典的な計算用の道具から始めて現代的なコンピュータの原理、そのためのプログラムの成立ち、さらに図形やシミュレーションを扱うための基本的な方法から、コンピュータでも解くことが難しい最適化問題などを見てゆきます。

普段何気なく行っている動作や操作も、すべて計算という枠組みで考えられることができて、世の中で行われている、いわゆる問題解決全体がすっきりとした形で理解できることを、この講義の学習を通じて学んで頂けたらと思います。

現代の国際政治（'13）

放送大学教授
（社会と産業）高橋 和夫

高橋 和夫 教授

『現代の国際政治（'13）』の制作に取り組んでいる。この科目は実験番組として放送大学の開学以前に制作されている。筆者が制作に関与したのは1986年からである。それ以来、ずっと改訂作業に取り組んできた。恐らく放送大学で、いちばん古い番組の一つだろう。改訂といっても、国際政治の激動を反映して、講義内容はシリーズごとに大幅に変わる。今回は、この古い科目を放送大学で一番新しい科目にしたいと思った。内容を一新した。イラクやエジプトでの調査を踏まえて現地の肌感覚の伝わる講義を目指した。

映像面でも幾つも新しい試みを導入した。まずユーチューブの映像を使った。そして映画のシーンを番組に持ち込んだ。さらに公開講義を行い、それを収録した。その講義にインターネットの会議システムを利用して全国各地から学生に参加していただいた。この古くて新しい科目の放送が、もうすぐ始まる。視聴者の反応が気にかかって胃の痛くなるような日々である。この感覚は改訂を繰り返しても変わらない。

日本の物語文学（'13）

放送大学教授
（人間と文化）島内 裕子

島内 裕子 教授

この科目は、日本文学の中から、高い人気を誇ってきたジャンルである「物語」に焦点を当てています。とりわけ、物語の全盛期である『源氏物語』とその前後の物語を詳しく学ぶことで、その本質を十分に理解していただければと思います。また、後の時代に物語がどのように変容してゆくのか、その流れもたどります。この科目で提供する物語文学の全体像は、日本文化をめぐるスケールの大きな思索をする際の基盤となることでしょう。

取り上げる主な作品は、『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』『狭衣物語』『浜松中納言物語』など、名作が目白押しです。また、室町時代の御伽草子や江戸時代の浮世草子や樋口一葉の小説などが、王朝物語と関連性を保有しつつも新機軸を打ち出した点にも注目します。それぞれの作品の内容・表現に深く分け入って解説しますので、必ずや物語文学の魅力を堪能していただけると思います。多くの皆さんの受講を願っています。

データ構造とプログラミング('13)

放送大学准教授
(ICT活用・遠隔教育センター) 鈴木 一史

鈴木 一史 准教授

現在、我々の身の周りには、たくさんのコンピュータ、家電製品、情報通信機器があります。こういったものを動作させるのに必要なものがソフトウェアです。この講義では、ソフトウェアの仕組み、そして、どのようにしたら効率的なソフトウェアを作成できるのかといったことを考えていきます。特に、計算機科学という観点から、"データ構造"と"プログラミング"について学習をしていきます。

計算機科学や情報科学に関連した仕事をしようと思っている方、趣味でプログラミング等をされている方、それから、ソフトウェアの仕組みがどうなっているのか知りたい方に、受講して頂ければと思います。
一人で何台ものコンピュータを持つような時代です。ソフトウェアの仕組みを知れば、より効果的に、しかも、楽しくコンピュータを活用できるのではないでしょうか。

生命分子と細胞の科学('13)

放送大学准教授
(自然と環境) 二河 成男

二河 成男 准教授

生き物の体は細胞と呼ばれる、膜で包まれた小さな袋が集まってできています。私たち人の場合、約60兆の細胞からなると言われています。そして、この細胞という構造は、分子というものがたくさん集まってできています。分子と言っても、生き物が作り出した、生きるために使われる分子です。これら"生命分子"や細胞について学び、考えることが授業の主題です。生き物の体は細胞から、その細胞は"生命分子"からなること、細胞の中で"生命分子"がどのように作られる、そして働いているのか、これらを対象とした研究による発見や発明が社会生活でどのように利用されているか、を学びます。細胞や分子の働き、遺伝子組み換え、DNA型鑑定、iPS細胞などの先端技術を、生物学的な意味で知ることは骨が折れる作業です。これは、社会問題を解決することが単純ではないように、生物も利用できるまで理解することは、容易では無いためです。そこに挑戦する皆さんの手助けができればと思います。

色を探究する('13)

放送大学准教授
(心理と教育) 佐藤 仁美

私たちは、この世に生を受け、常に色と関わり、色の中で生きています。また生活の基本である衣食住は、色とのかかわりがとても強いものです。

本科目は、「色」を"立体的"に、さまざまな視点で探究していきたいと思い、総合科目として、各分野を彩る先生方とのコラボレーションから実を結びました。自然環境分野より濱田嘉昭先生、美学・芸術分野より青山昌文先生、都市環境建築デザイン分野より仙田満先生、言語・異文化間コミュニケーション分野より大橋理枝先生、そして、心理・臨床心理学より佐藤といったメンバーで骨子を形成し、多才(彩)豊富なゲスト講師の先生方を放送授業にてお迎えして展開いたします。受講される皆様が、楽しみながら学び、自身の"色"を見つけ、また、色の探究だけでなく、各人のものの見方や考え方を確認したり、新たな方法論との出会いがあったりと、日々の生活にも役立てる科目となれれば幸いです。

ヘルスリサーチの方法論('13)

放送大学教授
(生活健康科学プログラム) 井上 洋士

井上 洋士 教授

健康や保健医療に関する研究には、基盤となるアプローチがあるのと同時に、多様な研究方法が存在します。調査研究について大別すれば、量的研究や質的研究があり、またそれらを組み合わせた方法論的トライアンギュレーションといった方法もあります。量的研究ひとつとってみても、介入的研究や質問紙による調査、WEB調査など多様な選択肢があり、自身の研究目的に合った方法を選び取る力を身に着けておく必要があります。本科目では、研究遂行のための道しるべとしてもらえるように、健康や保健医療の研究のアプローチの基礎について概略を紹介し、一部については方法を具体的に説明していきます。保健・医療・看護・健康に関連する学生の皆さんに受講してもらいたいと主には考えていますが、福祉、生活、心理、教育、社会など、他の領域の学生の皆さんも受講できるよう工夫してあります。ぜひ、一人でも多くの方に受講してもらいたいと思います。

環境工学('13)

放送大学教授
(社会経営科学プログラム) 岡田 光正

岡田 光正 教授

環境工学が対象とする環境問題は、古くからの大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などとともに、廃棄物問題、安全・安心の確保、気候変動、生物多様性の減少など、きわめて広範である。これらの問題を解決するとともに、持続可能な社会の構築に向けた具体的な手を提供していくことが環境工学に求められているため、個別の環境保全技術を学ぶだけでも膨大な量となる。

このため、本講義では、一つの軸として最も身近な水環境を取り上げ、水質汚濁の防止から、生態系も含めた水環境保全に至る環境工学の基本的な考え方を解説する。それをふまえ、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会、そして安全が確保される社会という持続可能な社会のあり方とその実現に向けた方法論を考えてもらうこととした。

本講義を通じて環境問題の発見とその背後にある目標の設定、そして問題解決のための具体的な方法論にいたる「環境工学」の基本的な考え方を理解していただければ幸いである。

現代物理科学の論理と方法('13)

放送大学教授
(自然環境科学プログラム) 米谷 民明

米谷 民明 教授

本科目は、物理学の様々な側面について、学部段階に比べて1段高い立場から総合的に見直すことにより、物理科学の基礎としての物理学に関する理解を深めていただこうという意図で企画しました。放送大学学部の物理学専門科目や関連する数学科目を一通り履修したのと同等以上の基礎的知識を持つ方を対象としています。物理学の広い分野で共通に用いられる考え方(論理)と方法に重点を置いて題材を選んだので、物理学に関連する問題意識を抱く大学院生の多くに興味を持っていただけるでしょう。時間空間、保存則、確率、モデル、等の基礎概念と方法の整理から始め、中間部分から後半は、主に、ミクロとマクロの関係、素粒子、原子・分子、凝縮系から宇宙までの異なったスケールで現れる特徴的な現象の理解に普遍的に役立つ考え方や数学的方法の本質について、相転移、対称性、エントロピーなどの役割を中心に具体例に基づき解説します。

旭川サテライトスペース

旭川市常磐公園（常磐館内）　〒070-0044
JR旭川駅から買物公園を通って約25分　電話:0166-22-2627

旭川サテライトスペースは、旭川市民の憩いの場、常磐公園内にあります。周辺には、市立中央図書館、公会堂、川のおもしろ館、市立美術館等多くの文教施設が建ち並ぶ、石狩川沿いの豊かな自然の中です。

施設には、20台の視聴用ブース、学生用PCを備えた再視聴室の他、図書室や3名の客員教員による学習相談が行われる客員教員室、面接授業、単位認定試験、学位記授与式等が行われる講堂、サークル活動等を行う多目的室等があり、放送大学職員2名と旭川市嘱託職員2名、合計4名で運営されています。

旭川サテライトスペースは、開所以来今年で13年目ですが、平成24年度第2学期現在、学部生576人、大学院生21人、合計597人と多くの学生が学んでいます。

学生さんは、卒業を目指す方の他、キャリアアップを目指す教員、看護師等医療関係者、最近では心理関係の資格取得を目指す方が多いのが特徴となっています。

八戸サテライトスペース

八戸市一番町一丁目9-22　〒039-1102
JR八戸駅から徒歩1分　電話:0178-70-1663

八戸サテライトは、学生さんが何か活動をしたいと思っても自由に使用できる部屋の確保が課題となっておりましたが、今年度、本部のご支援をいただき部屋を確保することができました。お陰で学生は、毎週定期的に種々の活動を通して相互の研鑽、親睦・交流を図っております。

大学での学びに必要不可欠と言える議論の場として「アカデミックカフェ」を開催し、学生が設定したテーマに沿って議論を重ね相互の研鑽に励んでいます。

また、今年度から後輩の学習支援を目的に「教えて先輩!」を立ち上げました。学習方法や大学生活全般に渡って、具体的なサポートやアドバイスも始めました。

サークル活動も活発で、その主な活動として「ミステリーサークル写真部門」では、毎月1回カメラについての講習会を実施し、その機能やテクニックを修得し、ミニブック等を作成し交流を図っており、また、「ミステリーサークルマジック部門」では、手品技術の修得に励み、各種親睦会等で多くの皆さんに披露し、拍手喝采を浴びています。今後もこうした活動の継続により、より一層の大学生活の充実を図っていきたいと考えております。

いわきサテライトスペース

いわき市平鎌田字寿金沢22-1（東日本国際大学内）〒970-8023
JRいわき駅から徒歩20分　電話:0246-22-7318

いわき市は福島県の東南端、太平洋に面し、茨城県と境を接する位置にあります。人口は32万9,900人余り、県内第1位です。戦前から高度成長期までは「常磐炭田」の中心地でした。現在では、水産業のほか、製造業が盛んで、東北地方でも有数の工業都市です。

いわきサテライトスペースはJRいわき駅から徒歩で20分、東日本国際大学構内にあります。福島第一原発からは約40キロです。平成9年9月に東日本国際大学を母体校として設置された「いわきコミュニティ学習センター」が平成16年に改組されて、当サテライトが発足しました。前身の時代を含めて、15年余の歴史があります。

現在、4名のスタッフと客員教授1名、そして244名の学生がいます。あの3.11大震災と原発事故では多くの学生が避難を余儀なくされました。現在でも避難生活を続けている人がいます。原発事故は収束とは程遠く、きびしい状態が続いていますが、学生たちは困難にめげず、学習に励んでいます。

浜松サテライトスペース

静岡県浜松市中区早馬町2番地の1（クリエート浜松2階）〒430-0916
JR浜松駅北口から広小路地下道を通り徒歩8分　電話:053-453-3303

浜松サテライトスペースは、平成6年（1994）にセンター外視聴施設の浜松学習室として設置されたことに始まり、平成12年（2000）に浜松サテライトスペースに改称されて現在に至っています。平成22年（2010）10月2日（土）には、学位記授与式・入学者の集いの終了後、開設10周年記念の公開講演会を開催し、県立浜松北高校ご出身の岡部洋一副学長（現学長）に講演をお願いしました。

在籍者数は、平成24年度2学期現在で896名（うち大学院生76名、愛知県137名）となっています。単位認定試験の受験者は、延べ人数でいうと毎回2500名前後もあり、サテライトスペースとはいえかなりの大所帯です。それにもかかわらず、実効面積がわずか96㎡と極めて狭隘で、独立した事務室や学生さんたちが集える場所も確保できないのが残念です。これまでも施設改善の努力はしてきましたが、引き続き最優先課題だと思っています。

世界遺産に見守られた姫路サテライトスペース

姫路市本町68-290（イーグレひめじ内）　〒670-0012
JR姫路駅から徒歩約15分　電話:079-284-5788

JR及び山陽電車姫路駅から徒歩約15分。御幸（みゆき）通り商店街・小溝（おみぞ）筋商店街を通り抜ければ、雨の日でも傘がなくても通える学習施設。それが姫路サテライトスペースです。

当サテライトは、市街地再開発ビル「イーグレひめじ」の地下2階にあります。したがって、視聴学習室には窓がありませんが、学生にとっては外界に気を取られることなく勉強に集中できる場所です。

また、エスカレーターで4階、さらに屋上へと上がれば、まるで白鷺が羽を広げたような世界遺産「姫路城」（現在、大天守修理中）の雄大なパノラマを間近に見ることができます。そんな恵まれた環境に姫路サテライトスペースがあります。

現在575名の学生が在籍しており、兵庫学習センターとの綿密な連携のもとサテライトスペースとはいえ施設・設備面、サービス面において他のサテライトや学習センターに見劣りすることのないよう3名の職員が一丸となって頑張っています。

福山サテライトスペース

福山市霞町一丁目10番1号（まなびの館ローズコム3階）　〒720-0812
JR福山駅から南へ約700m（徒歩10分）　電話:084-991-2011

福山サテライトスペースは、JR福山駅から南へ約700メートルの場所に福山市が設置した生涯学習施設「まなびの館ローズコム」の3階にあります。

ここは、かつて備後福山藩の藩校「誠之館」が開設された場所で、同館の1階と2階には約45万冊を収蔵する中央図書館、4階には生涯学習センター、子育て応援センター等が設けられています。福山サテライトスペースは、2001年（平成13年）、福山市からの熱心な誘致を受けて福山市立女子短期大学内に開所しましたが、2008年（平成20年）7月に「まなびの館ローズコム」が新設されたことに伴い現在地に移転しました。利用できる学習室が限られることや学生数が少数であることなどから、独自の同窓会やサークル活動の実施が難しいため、学生相互の親睦を図る行事の一環として、美術鑑賞会を実施しています。これは毎年ふくやま美術館で開催される特別展を、上期と下期の二度にわたって鑑賞するもので、その都度好評を博しています。引き続き、学びやすく親しみやすい、学生の視点に立ったサテライトスペースとなるよう職員一同頑張りたいと思っています。

北九州サテライトスペース

福岡県北九州市小倉北区城内4-1　〒803-0813
JR小倉駅から徒歩約15分、JR西小倉駅から徒歩約10分　電話:093-561-9879

北九州市は生涯学習の推進を図ることを目的として、放送大学を誘致するため、国へ設置要望書を提出し、平成11年4月に放送大学北九州サテライトスペースとして設置されました。設置された平成11年度第2学期から受け入れた学生は年々順調に数を伸ばし、平成17年度には800名近い在学生に達しました。現在は600名を越える学生が学んでいます。

北九州サテライトスペースは、北九州市立図書館の2階に約200㎡の再視聴覚室と事務室を構えおり、単位認定試験、面接授業などについては市の施設あるいは民間の会議室で実施しています。

近隣には北九州市立文学館、松本清張記念館、生涯学習総合センターがあり、目の前の小倉城は桜の観光スポットでもあります。北九州サテライトスペースはこのような施設、広大な勝山公園に囲まれ、環境は申し分ないところです。

北九州市立図書館は平成26年度に耐震工事が予定されており、北九州サテライトスペースも一時的に引っ越しすることになります。今後、引っ越し先の確保及び運営、耐震工事終了後の再視聴覚室の整備などが課題となります。

放送大学エキスパートをご存知ですか?

皆さんは、科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)をご存知でしょうか。これは、放送大学が指定する特定の授業科目群を履修することにより、ある分野に目的・関心を持ち、学習を体系的に行ったことを証明する制度です。

本制度も、2006年度からスタートして7年目を迎え、これまでに発行された認証状の数は12,870件(2012年12月31日現在)と、多くの方に学習の目標として活用していただいてきました。中でも、「健康福祉指導プラン」や「福祉コーディネータプラン」など、福祉に関するプランが人気を集めていますが、一番人気があるのは「心理学基礎プラン」で、心理学への関心の高さがうかがえます。

	認証状名	認証数
1位	心理学基礎プラン	1,763件
2位	健康福祉指導プラン	1,706件
3位	福祉コーディネータプラン	1,421件
4位	次世代育成支援プラン	860件
5位	歴史系博物館プラン	839件
6位	社会生活企画プラン	764件
7位	芸術系博物館プラン	639件
8位	生命科学プラン	550件
9位	異文化コミュニケーションプラン	519件
10位	食と健康アドバイザープラン	405件

2012年12月31日現在

さらに、2011年度第2学期からは、24番目のプランとして、「臨床心理学基礎プラン」が新しく加わりました。臨床心理学について専門的に学ぶ場合には、大学院の臨床心理学プログラムでの学習が必要となりますが、この「臨床心理学基礎プラン」では、まず学部段階で身につけるべき基礎的な知識の習得を目的としています。臨床心理学に関心を持っているけれど、今まで学習したことがないという方は、まずは「臨床心理学基礎プラン」の取得を一つの目標としてみてはいかがでしょうか。

これからも、皆さんの学習の道標として、科目群履修認証制度を是非ご活用ください。

※「臨床心理学基礎プラン」を取得しても、臨床心理士資格試験の受験資格は取得できません。

退任のごあいさつ

『学ぶこと』

自然と環境 教授
自然環境科学プログラム 熊原 啓作

放送大学が全国の学習センターに学生を受け入れ全国化を行った1998年10月に着任して以来14年半の勤務を終え無事定年を迎えられるのはすべて放送大学の諸先生、スタッフの皆様のご指導とご理解・ご協力によるものであります。さらには学生の皆様の勉学に対する熱意が大きな力となり、沢山のことを学ばせていただいたことを心から感謝申し上げます。40年前、研究だけが仕事であった助手から、助教授になって講義を持ったとき分かったことは、自分で学び理解することと他人に教え理解させることとの間には大きな差があり、「教えることは学ぶこと」でした。放送大学では学ぶ側が実に様々な関心と必要性をもった個性の集まりであり、「教えることは学ぶこと」にさらなる深みと幅が要求されました。これからも学びを続けその中に喜びを見つけたいと願っております。できることなら「生きることは学ぶこと」が実感できる人生であればと思っております。

私も放送大学もずいぶん変わってしまったと感じながら退任します

社会と産業 教授
社会経営科学プログラム 東 千秋

左の写真は私が放送大学に着任した1986年当時のもの、右の写真は現在の私です。ずいぶん変わってしまいましたが、大学の方も変わってしまったと感じています。開学当初の売りの一つは「産業と技術専攻」と呼ばれた文理融合の分野でした。これは放送大学開学準備にあたっていた当時の有識者の英知だったと思います。それは具体的には科学技術を社会との関係で考える「産業と技術専攻」の「工学・技術分野」に実現していました。しかし学生数という指標による経営判断によって「産業と技術専攻」は「社会と経済専攻」に吸収合併され現在の「社会と産業コース」に改編されたと私は感じています。異なるカテゴリーに属する物事の価値は単純に数量だけで判断できないため重みづけをしなければなりません。物事の価値を重みづけして考えられる尺度を持つことに教養の意義の一つがあると思います。このように感じながら私は、「物質・材料工学と社会」や「問題の発見と解決」の授業科目を担当し定年を迎えてしまいました。今後とも「科学技術立国日本」のための教養づくりに貢献する「放送大学」に期待しています。

学園 News

特別番組
「シリーズ 遠隔教育」を放送

私立大学通信教育が発足して60年余り、平成25年に放送大学が設置されて30年となることを記念して、放送大学では特別番組「シリーズ遠隔教育」を制作。日本の遠隔教育の未来を拓く2回シリーズとして、放送大学学園白井克彦理事長と私立大学通信教育協会高橋陽一理事長の対談を交えて放送しました。

第1回放送では、日本の通信制大学が社会人を含む様々な学生を受け入れ日本の高等教育の発展に貢献している現状を、私立大学通信教育協会加盟大学及び放送大学における様々な授業の実態や、卒業生たちへの取材を通して紹介。第2回放送では、24年10月に千葉市幕張で開催されたアジア公開大学連合（AAOU）の年次大会を機に、アジア及び欧米の公開大学の取組を紹介しながら、世界の通信制大学の多彩な教育の現状を見つめ、通信制大学の未来を展望しました。

今後の放送予定については、ホームページをご覧ください。

『リブナビ2013』ができました
―図書館使いこなしガイド―

附属図書館では、学生の皆さんが、遠隔地からでも大学の資料を活用して学習・研究することができるよう、さまざまなサービスを提供しています。これらのサービスを知っていただくために『リブナビ2013 Library Navigator ―図書館使いこなしガイド―』を作成しました。『リブナビ』には、

- どんな資料があるのか、探すにはどうすればいい？
- 資料は、どうすれば利用できるの？
- 電子ブックは、どうやって読むの？
- パソコンで読める資料はなにがあるの？
- 自宅から電子ブックや電子ジャーナルを読みたい！

等々、図書館のサービスを有効に活用するためのヒントが満載です。『リブナビ』は、附属図書館のホームページ（http://lib.ouj.ac.jp）でご覧いただけるほか、学習センター・サテライトスペースにも冊子を用意する予定です（2月中旬～）。どうぞご覧いただき、学習・研究にお役立て下さい。

夏季集中科目の学生募集が始まります　広報課

夏季集中放送授業期間に「学校図書館司書教諭資格取得に資する科目」、「看護師資格取得に資する科目」を開設します。学生募集等の日程は下記のとおりです。

	学校図書館司書教諭資格取得に資する科目	看護師資格取得に資する科目
学生募集要項配布	2013年4月1日(月)～	2013年4月1日(月)～
出願受付期間	2013年5月1日(水)～5月31日(金)	2013年5月1日(水)～5月31日(金)
放送授業期間	2013年7月22日(月)～8月5日(月)	2013年7月22日(月)～8月5日(月)
通信指導提出期限	2013年8月16日(金)	2013年8月16日(金)
単位認定試験	2013年10月18日(金) (単位認定試験レポート提出期限)	2013年9月27日(金) 2013年9月28日(土) いずれか1日を選択

夏季集中科目の受講を希望する方は、大学本部広報課又は最寄りの学習センターまでご連絡ください。この要項はご連絡いただいた方のみに配布します。
在学生が履修を希望される場合にも科目登録申請要項(夏季集中型専用)を入手して、必要な手続きをお願いします。

2013(平成25)年度大学院 文化科学研究科(修士全科生)入学者選考結果　教務課

修士の学位取得を目指す大学院修士全科生に456人が合格しました。

プログラム名	生活健康科学	人間発達科学	臨床心理学	社会経営科学	人文学	情報学	自然環境科学	計
募集人員	90人程度	60人程度	30人程度	100人程度	90人程度	70人程度	60人程度	500人
出願者数	114人	105人	442人	138人	106人	51人	70人	1,026人
合格者数	82人	51人	31人	114人	79人	46人	53人	456人
倍率	1.4倍	2.1倍	14.3倍	1.2倍	1.3倍	1.1倍	1.3倍	2.3倍

※倍率は出願者数／合格者数

「UPO-NET for 放送大学」「看護師国家試験学習支援ツール」について　ICT活用・遠隔教育センター

放送大学では、学生の皆さんへ「UPO-NET for 放送大学」「看護師国家試験学習支援ツール」において、様々な教材をeラーニングにて提供しています。学生の方は全て自由に教材をお使い頂けます。自己の課題に応じて学習にお役立てください。なお、詳細は学習センターに配架しているパンフレット(右画像)をご覧いただくか、キャンパス・ネットワーク・ホームページのおすすめメニューからアクセスし、ご利用ください。

くわしくは　放送大学　検索　http://www.ouj.ac.jp/

UPO-NET for 放送大学

看護師国家試験学習支援ツール

編集後記

前号までで行われていたコース別座談会が終わり、次号からはコースを越えた座談会を計画しています。そのテーマとして、編集委員会にて「ソーシャル・キャピタル」が選ばれました。今回はその第一歩として坂井教授にお話しいただきました。非常に学際的なテーマであり、それぞれのコースにも密接に関わるテーマでもあります。

現在、放送大学ではICTを活用した双方向性を拡充するような環境整備を行っています。こうした環境作りによってもたらされる学生同士、教員同士、学生と教員の交流は、果たして学びをどのように変えていくのか。そして、そうした状況の中で、私たちはどのように接して行けばよいのか。次号から始まる座談会をもとにお考えいただければ、と思っています。(秋光 淳生)

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp

放送大学通信 オン・エア 編集委員(2012年度)

委員長	教授	島内 裕子
副委員長	教授	髙木 保興
委員	副学長	吉田 光男
	教授	井上 洋士
	教授	米谷 民明
	准教授	岡崎 友典
	准教授	秋光 淳生
	准教授	柳沼 良知
編集事務担当		総務部広報課

放送大学
http://www.ouj.ac.jp/　ISSN 1343-3369